

芦田ゼミナール活動報告

1 活動について

芦田ゼミでは、社会学的視点から地域づくりや地域開発の問題について考えるために、フィールドワークを実施しています。2022年度の専門ゼミナールⅡ（3年次）では、「小田原市のまちづくり」を事例として、まちづくりの課題と可能



小田原市役所での調査の様子

性について考えました。小田原市は歴史や自然、伝統産業や交通といった豊かな地域資源を活用しつつ、居住者と来訪者の双方に目配りした特色あるまちづくりを展開しています。以下では、フィールドワークを通してゼミ生が学んだことを紹介していきます。

2 フィールドワークを通してゼミ生が学んだこと

●事前学習、フィールドワークを通して学んだことは別の視点を持ち物事を見る事であった。実際に市役所の職員の方、住民の方からお話を伺って、小田原市は歴史資源や自然資源、落ち着いた街並みといった魅力的な部分がある。しかし、それらの魅力が周囲には伝わっておらず、最大化されていないように感じた。その魅力度をより高める為には、第三者からの視点と地域住民からの視点を取り入れた政策が必要になると考えた。また、地域住民と共同でまちづくりを行う事で地域発展やコミュニティの活性化に繋がり、より小田原市が住みやすく、周囲からの注目を集める事ができると考えた。

（泉田 芽吹）

●フィールドワークでは、今後地域活性化の問題を考えていく上での様々なヒントを得ることが出来た。特に印象的だったのは、小田原市職員の方

人間科学部 人間科学科 芦田ゼミナール

の「まちづくりは人づくり」という言葉である。この言葉を聞き、人がいるからまちとなるのであり、住む人にとって住みよいまちを作ることが重要であるということに、改めて気づくことが出来た。「まちづくりは人づくり」。この言葉を念頭に置き、今後もまちづくりについてさらに深く考えていきたい。

（増子 優衣）

●フィールドワークを通して、自らの地域に対する地域の行政・自治体の把握力と調査力、地方都市のライフスタイルの実態などについて事細かに知ることができ、直面している問題と実際の様子について学ぶことができた。また、それらを通して小田原について考えた結果、地方自治体が立案する計画、商業施設が地方都市において行っている経営戦略の緻密さに気づくこともできた。

（遠藤 朱馬）

●フィールドワークに行く前は、駅前開発について詳しく知りたかった。実際に行ってみると、「開発」一つを知るにも「市の方の思い」や「地元住民の思い」すべてが相互しあって出来ているのだなということに非常に感じた。駅前にて調べているつもりであっても、気づいたら小田原市の人の思いという部分につながっていて、非常に面白かった。

（柳田 朱里）

●小田原市について事前調査を行った時の印象と、フィールドワークで実際に現地に行ってみるでは全く印象が異なることに気づいた。学校の行事で訪れたことはあるが、移動はバスであったため歩いたことはなかった。点と点が繋がったことで全体を見て知ることができた。調べていく内に市が抱えている問題が見えてどうしたら改善できるかゼミ生で考えて発表したのが、なかなか解決には繋げることは出来なかったのが、今回のものどかしいところであり、面白いところだと考える。

(柳田 彩花)

●今回のフィールドワークを通して、知名度とのギャップを感じる場面が多かったと感じる。小田原という地名の認知度とは裏腹に宿泊客などが少なく、観光地としては周遊性をあげたり駅から小田原城までの道に商店街のような店舗を並べたり、さらに施設の営業時間延長をしたりなどの対策が必要だと考えた。

(篠田 すす)

●フィールドワークを通して、魅力的な観光資源があることに気づいた。小田原城を筆頭に、漁港やミナカ小田原など様々な施設が存在している。しかし、各施設のアクセスが悪く流動性がないという課題があるため、今後小田原市がこの課題をどのように解決していくのかに注視していきたい。

(熊川 裕喜)

●フィールドワークの結果、観光スポットが点在しており、回遊性が悪いことが強く印象に残った。また、箱根町や鎌倉市と比べると、街中に観光客が気軽に立ち寄れる飲食店やお土産屋が少ないよ

うにも感じた。回遊性を向上させるための方法の1つとして、観光スポットの近くや道中にお土産屋、休憩所を設置するのもありかもしれないと思った。

(赤羽 沙耶)

●小田原市でのフィールドワークで、私は地域振興におけるPRの重要性について学んだ。小田原市には地場産業としてかまぼこ以外にもちようちんや干物、寄木細工など素晴らしいものがあるが、それらはあまり広く知られていない。市内でも大きく取り上げられていないためでもある。

(宮瀬 玄武)

●小田原市について、ネットの情報や外から見ただけではわからなかった部分を現地に行き、また現地と関わりのある人々から実際に話を聞くことで、事前に調べたこととは違った課題や市の立地等に対する自分の考えを持つことができた。小田原市について主体的に考えるということが現地に実際に赴くことで可能になるということを学んだ。

(安藤 清花)

●フィールドワークの前に、事前調査をした。しかし、実際に小田原市を訪ね、自らの目で、小田原市を考察する時、予め調べたデータに基づき、構築した小田原市の像と異なる具体的な小田原市を感じた。データは重要であるが、直接的に地域を訪ね、自身の視点あるいは地域住民の視点で地域を考察することも必要だと考える。

(シヨ ソウ)

●フィールドワークを終えて、私は事前調査をしつかりと行ったうえで実際に現地に足を運び調

査することの重要性を学ぶことが出来た。事前調査だけでは細部を詳しく知ることが難しかったり、事前調査なしに足を運ぶのでは焦点を絞れず、しつかりと中身のある調査にまで至れなかったであろう点からも、事前調査と現地での調査の両方を充実させることが重要であると考えた。

(恩田 秀佑)

●フィールドワークは、単に目的地の旅行ではなく、様々なことを記録しながら、問題に気づくのが重要だと感じた。フィールドワーク後の発表を通じて、自分が興味があったテーマ以外のテーマについても理解した。小田原市のフィールドワークでは、市の職員の話を聞き、小田原市の風景を実際に見られて、良い点と問題点を気づいて、非常におもしろく、いい経験だと思った。

(呉 恒鉦)

●今回のフィールドワークは小田原市に訪れる外国人と暮らしている外国人について調査しようと考えた上で事前調査し、調べた内容にまだわからないことを念頭に置いてから現地に行き、何を見なければならないのか、何を注目すべきなのかが明確になった。

(程 忠誠)

●実際に行くことができなかったが、発表を聞いた、住民の方の話を聞いてやはり現地に行かなければわからないことがあると思った。HPでは大々的に出ているものでも現地にいくとあまり迫力が無かったり、観光地として発展しても、住民にとっては住みやすい街でなくなったりなど、地域開発の難しさに改めて気づいた。(宇佐 美愛)



小田原城にて